

高 下関北高校だより

(令和3年7月26日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地
TEL(083)782-0023 FAX(083)782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。
<http://www.shimonosekikita-h.ysh21.jp>

■ 県高校総体に出場しました。

5月29日(土)、30日(日)、6月1日(月)は、県内各地で高校総体の各種目が行われました。

このうち、相撲競技は南陽工業高校の相撲場で行われ、個人戦の80kg級で久保田修佑斗君が1位、下村耶真人君が2位、浴町建太郎君が3位、100kg級では山口颯斗君が1位、無差別級では山口颯斗君が1位、谷本誠一郎君が2位、久保田修佑斗君が3位になりました。個人80kg級の1位、100kg級の1位、無差別級の1位から3位と団体唯一の出場となった下関北チームも含め、8月6日から新潟県糸魚川市の新潟県糸魚川市民総合体育館で開催される全国高校総体への出場が決まりました。



陸上競技部は女子4×400mリレーは予選・準決勝を勝ち抜き、決勝進出。6位までが中国大会出場となるどころ、最終走者のラスト10mで他校に逆転され、惜しくも7位となりました。

ソフトテニス部(女子)は1回戦を柳井商工に2-1で勝ち上がりましたが、2回戦で岩国商業に惜しくも敗れました。

他の部活動の初戦の結果は以下のとおりです。

ソフトテニス部(男子) 1-2 周防大島高校、テニス部 1-2 防府西高校、バレーボール部 0-2 美祢青嶺高校、サッカー部 0-5 徳山高校

初戦で惜しくも敗れましたが、最後まであきらめない粘り強さを見せました

■ ハナショウブが見頃を迎えています。

下関市豊北町滝部の向坊地区にあるショウブ園で、地元グループが世話をしているハナショウブが見頃を迎えています。昨年、地域探究の「環境・自然」グループが植え付けを手伝いました。そのハナショウブを総合文化部の生徒が玄関等に生けて、来校者を迎えています。心が癒されるというお言葉をいただいています。6月3日には、雨の中ではありますが、「環境・自然」グループが自分達の植えたハナショウブを観賞し、育て方等の説明を受けました。ショウブ園は古民家とのぼり旗が目印で、6月4日から6日に市内外の陶芸家、木工家計17人が町内の土、木を使った器などを紹介する作品展(邁斯光庵展)が古民家で開催されました。陶芸に使う土についての説明も受けました。



■ ロシアとオンラインで相撲トレーニング。

山口県相撲連盟は6月3日(金)、ロシア・クラスノダールの相撲連盟と初めてオンラインで交流しました。

山口県はロシアクラスノダール地方政府と平成29年(2017年)に貿易、経済、文化、スポーツ、学術及び観光分野における協力に関する協定を締結しており、この度、国際相撲連盟の普及活動により、ロシア側から国内の競技認知度が低いため、地域に普及させたいという要望を受けて、山口県相撲選手とオンライン交流を通して、競技の普及と互いの技術力の向上に努めるとともに、友好関係を深めることを目的に開催されました。

本校からは、講師として朝岡秀太教諭が、また補助員として相撲部員の山口颯斗君、谷本誠一郎君、久保田修佑斗君、浴町建太郎君が参加しました。基本動作、礼法として蹲踞(そんきょ)・塵浄水(ちりぢょうす)・姿勢としての中腰の構え・仕切り、鍛錬法としての四股・運び足、それに実践の技術として、押しや投げ技など相撲独特の動作の要点をオンラインで丁寧に解説しました。講師の朝岡秀太教諭は「オンラインでの指導経験はなく、通訳の方を介しての指導ということで、なかなか思い通りにいかない部分もありましたが、コロナ禍における新しい交流モデルになったのではないかと思います。また基本を一から指導するため、我々も相撲を見つめなおす良い機会になりました。今後も継続的に指導を行っていき、元通りの日常に戻ってきた際には、現地に行って直接指導する機会が持てればと思っています。」と感想を述べられました。本校の生徒にとってもよい経験となりました。



■ 令和3年度「文化祭」開催。

6月13日(日)、文化祭を開催しました。県高校総体が終了して、わずか2週間でしたが、連日、各団体とも協力して遅くまで準備をしました。

今年も、新型コロナウイルス感染症の新たな感染者が減らない状況の中での開催となったため、感染拡大防止の観点から様々な対策を講じて実施することとし、例年、一般公開を自由参加としていましたが、在校生の家族に限定して行いました。

今年の文化祭のテーマは“福北る 一つのキャンパスに無限のカラー”、オープニングでは、文化祭実行委員長の岩崎翔吾の「今日一日みんなで文化祭を盛り上げていきましょう」というあいさつの後、自然と拍手が沸き上がり、北高生の結束が高まり文化祭がスタートしました。

1年生は学年全員で、モザイクアートや階段アートなどの校内装飾を行い、2年生はクラスごとにキッキングスナイパー、輪投・クラス動画、ジブリ展を行いました。3年生は、おにぎり、コロケ、から揚げ、ポテト、焼きそば、ジェラートなど、家庭クラブは、パン、プリン、シュークリームなどの食品バザーで、皆のお腹を満たしました。総合文化部は俳句や絵、部活新聞などを、家庭科の授業で作成したベビースタイ、児童文化財などを展示しました。ステージ午前の部では、生活と福祉の授業選択者による手話ソングの披露、自作の服を着たファッションショー、コント、吹奏楽部による迫力ある演奏などが会場を盛り上げました。ステージ午後の部では、クラス対抗カラオケ、有志団体によるバンド演奏の他、「未成年の主張」が発表され、最後にダンスが披露されました。高校生の一生涯懸命な格好良さと、かわいらしさが見ている人の目を楽しませました。

また、生徒自ら、コロナ対策として3密を避けるようプラカードを抱え、“ソーシャルディスタンス”を呼びかけて、校内を巡回しました。

本校では、一人一役二役は当たり前、三役四役で一人前といわれるように、旧下関市内の高校と違って、一人ひとりの生徒の出番や役割が多いのが特徴です。それぞれの場面で、日頃とは少し違う生徒の生き生きした姿をたくさん見ることができました。多くの保護者の方にも見ていただくことができました。食品バザーでは市内の業者の方にもお願いして、仕入れた商品を販売しました。ご協力ありがとうございました。



■ 地域探究Ⅰ・Ⅱ「環境・自然」グループの活動紹介。

地域探究の「環境・自然」グループでは、北高夢ロード実行委員会の岡崎新太郎先生、藤岡達雄先生のご指導で、下関北高校正門前の滑川や神出川の生き物について調べました。

6月17日(木)の授業では、男子生徒も女子生徒も胴付長靴(防水つなぎ)を履いて実際に川の中に入り、どのような生き物がいるか網で捕まえて調べました。



初めて胴付長靴を履いての活動に戸惑う生徒もいましたが、先生方の指示のもと安全面に注意して活動しました。川には、田に水を引くために堰堤が作られており、堰堤の上流は深く、下流は浅くなっています。今回は下流のみを調査しました。そこにはタニシやメダカ、スジエビ、ハヤの稚魚がたくさん生息していました。最後にアオイトトンボが飛び姿も見られ、きれいな水と豊かな自然に恵まれていることを実感しました。



■ 地域探究Ⅰ・Ⅱ「文化・文芸」グループの活動紹介。

地域探究の「文化・文芸」グループでは、6月17日(木)の授業で、豊北町田耕のあじさい園を訪れて俳句を創作する授業を行いました。このあじさい園は管理されている個人の方が、初めは日照不足の改善のために山の斜面を伐採し、そこに数株のあじさいを植えられたそうです。それが年々増えて、今では30種類以上の400株を超えるあじさいが斜面一杯に咲いています。

「文化・文芸」グループでは、豊北町が女芭蕉と呼ばれた江戸期の俳人田上菊舎が誕生した地であるということから、俳句の創作を行っています。現在は、俳句創作の第一歩として「季語を含まない12音をつくる」という活動を行っています。今回の授業では「あじさい」という言葉を使わずに「あじさいを12音で表現する」という活動を行いました。生徒は様々な種類のあじさいをじっくりと観察して、花の構造や色の美しさを「ファンタジー」「俺の青」などの言葉を用いながら表現していました。

次の授業では、この12音を使って俳句を完成させる予定です。

